

令和6年度 校内研究について

(1) 研究主題

研究主題 **「教科担任制を生かし、児童の学びの質を向上させる授業づくり」**

－ 学びを楽しみ、深める児童の育成 －

(2) 研究主題設定の理由

1. 学校教育目標の具現化から、本校では、

- ◎「よく考えて すすんで学習」(知)
- 「人に親切 仲良く協力」(徳)
- 「強い体 やりぬく心」(体)

を教育目標に掲げ、日々の教育活動を行っている。本主題は、教科担任制を生かし、各教科、領域の中で「よく考えて すすんで学習」(知)を具現化し、思考力、表現力を高めようとするものである。

2. これまでの研究から

本校では長年国語の研究に取り組んできた。平成29年度から令和4年度までは、文学的文章の指導法の研究に取り組んできた。叙述をもとに、対話的な学びを工夫すること、言葉にこだわり課題設定を工夫することなど、思考力・判断力・表現力の育成を図ってきた。

昨年度は、「書くこと」に焦点を当て、今までの取組を生かしながら研究を深化・発展させることができた。主題に「自分の言葉で表現する」ことについて、相手や目的に応じて、自分の思いや考えを伝えるために必要な語彙を選択し、表現することを目指し、「書くこと」に対する苦手意識を軽減し、「書くこと」への意欲を持たせることができた。

今年度は、「小学校教科担任制」が本施されることを受け、「教科担任制」の特性を生かし、各教科の指導力を高めることができるよう、研究を進めることとした。これまで同様、児童が学びを楽しみ、学びを深めることができるよう、各教科での専門性を高め、児童の学びの質の向上に努めていきたい。

(3) 目指す児童像(提案)

(国語)「言葉を適切に捉え自分の考えを表現し、共に学び合える児童」

(社会)「自ら問いを見出し、調べ、自分なりに考える児童」

(理科)「自ら問いを見出し、調べ、自分なりに考える児童」

(体育)「運動に夢中になって取り組み、考えを交流しながら高め合う児童」～体づくり運動～

(4) 研究内容

1) 研究領域

国語・社会・理科・体育の教科に教員が分かれ、各専門の教科・領域で研究をすすめる。

2) 研究の視点

各部会で検討し、設定する。

(5) 研究の方法

- 1) 指導者が主題を明確に捉え、教材の課題設定や指導方法を工夫した授業を日々の指導の中で実践する。
- 2) 目ざす児童像やねらいを達成するための学習の取り組みを年間を通して行う。
- 3) 年4回の授業研究会を開き、各分科会の取組や提案について全体で検証する。
- 4) 各分科会で研究実践の成果と課題をまとめ、3月に全体で共有する。

教育目標より

◎よく考え すすんで学習する

<滝坂小学校の児童の実態>

- ・提示された課題には取り組めるが、自分なりに考えたり、工夫したりすることが少ない。
- ・話し合うことに抵抗はないが、話し合いが深まったり、自己改善に繋がらない。
- ・学び終わった後、振り返ったり、次の課題に生かしたりする力が弱い。

<令和5年度の研究の課題より>

- ・自分が書いた文章を、よりよく直すところまでできていない。
- ・児童同士で情報を共有したり、交流したりすることで学びを深めることができていない。

<新学習指導要領の告示から>

- ・各教科等の目標及び内容が、育成すべき資質・能力の三つの柱で整理された。
- ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が求められた。

<教師の願い>

- ・「やってみたい」と主体的に学びに取り組んでほしい。
- ・友達と対話しながら、対話学びを深めてほしい。
- ・対話したことに満足せず、自己改善に繋がってほしい。

教科担任制を生かし、児童の学びの質を向上させる授業づくり

～学びを楽しみ、深める児童の育成～

- ・「やってみたい!」と主体的に学びに取り組むことができる。
- ・友達と対話しながら、学びを深めることができる。

国語分科会の目指す児童像

「言葉を適切に捉え自分の考えを表現し、共に学び合える児童」

理科分科会の目指す児童像

「自ら問いを見出し、調べ、自分なりに考える児童」

社会科分科会の目指す児童像

「自ら問いを見出し、調べ、自分なりに考える児童」

体育分科会の目指す児童像

「運動に夢中になって取り組み、考えを交流しながら高め合う児童」～体づくり運動～